

イノベーションの促進とは

－ロシアで考える－

開倫塾

塾長 林明夫

Q：ロシアには何をするために行かれたのですか。

A：(林明夫：以下省略)公益社団法人経済同友会ロシア NIS 委員会のロシアミッションの一員として、2月7日の北方領土の日から2月12日の前原誠司外務大臣がロシアから帰国の日まで、モスクワとニジニノヴゴロドに行き回りました。

団長は多田幸雄双日総合研究所社長、団員はティラド社長、BNP パリバ証券東京支店会長、トヨタフィナンシャルサービス副社長、NTT 副社長と私の5名で、モスクワ空港のテロによる爆破事件直後だったためか、少数精鋭でした。

Q：冬のモスクワは寒くありませんでしたか。

A：世界最先端のラジエーターをつくる日本企業ティラドの現地工場を視察後、外に出たら冬の日光に輝く空気の結晶、ダイヤモンドダストが見え、その美しさに感動しました。思わず私の好きなユーミンの曲を思い出してしまいました。

マイナス30度と寒かったですが、ニジニノヴゴロド公園の「平和の火」を、軍服(迷彩服)を着て8人編成で30分交替で儀仗兵(ぎじょうへい)のように守り続け、行進している中学生の男女を見、身が引き締まる思いでした。平和の尊さ、戦争を忘れない、自らの国は自らの手で守る気概を中学生のうちから育てるための教育とお聞きし、考えさせられました。

Q：視察の目的は何ですか。

A：10年後を見据えたロシアと今後の日ロ関係、具体的にはロシアが中長期的に資源エネルギーに過度に依存した現在の経済から、イノベーション、ハイテク産業、自動車等の製造業等にも支えられた経済に転換できるのか、ロシアがこうした経済に転換していく中での日ロ関係はどうあるべきかを実地に検討するための視察でした。

Q：具体的には何を聞き出したのですか。

A：モスクワでは、到着初日に河野大使にお招き頂き、ロシアの現状をじっくりお聞きした上で、翌日から、アン経済発展省政策投資局次長、グセク・ボロネジ州副知事、クズネツォフ産業家企業家同盟国際局長と面談。

また、ロシア版シリコンバレー計画について、中心となって計画しているスコルコボ基金の皆様と円卓会議を実施。

最終日には、前原誠司外務大臣と日本大使館で面談。私は、日ロの人材交流、とりわけ留学生とビジネスマンの交流と、日系企業がロシアで事業を展開する時の許認可のスピードアップ、来年 APEC が開かれるウラジオストクの会場跡に開校予定のウラジオストク連邦大学への日本の高等教育機関の開学当初からの参加、中国の孔子学院に負けないような日本センターの整備・強化などを大臣に提言しました。

トヨタの DC センターやトヨタのディーラー、ユニクロのモスクワ店にも行きました。モスクワには物があふれ、消費者は購買意欲が旺盛、バブルの寸前といった様子でした。

Q：ロシアにシリコンバレー計画があるとはびっくりですね。ニジニノヴゴロドには何をすために行ったのですか。

A：高速列車で 3 時間半かけて訪れた自動車産業の盛んなニジニノヴゴロドではイワノフ副知事と面談、大同メタルやティラドとの合弁会社 TRM、GAZ 自動車を視察。

そのニジニノヴゴロドから自動車で 3 時間半かけてサハロフテマパークを訪問。ここはソ連時代に初めて原爆を開発した閉鎖都市サハロフに隣接したハイテク・リサーチ・パーク。サハロフには 2 万人の原子力の研究スタッフが存在。核廃絶が進む中、これらの人々の知識や技術を民間転用して国家や世界の発展を希ってつくられたのが、このリサーチ・パーク(研究拠点)。インテルやノキア、シーメンス、マイクロソフトなどが進出。インテルを訪問しましたが、Phd(博士号)を有するロシア人の 30 代の若手研究者 100 名余りが研究に励んでいました。

まだ日本企業の進出はないが、是非、日本と共同研究をしたいという熱いメッセージを送られました。

Q：ロシアに行って感じたこと、考えたことは何ですか。

A：北方領土という困難な問題はあると思いますが、その北方領土問題を解決するに際しても、まずは両国の信頼関係を樹立することが第一。その信頼関係を築く一番よい方法は人材交流や経済交流かと思います。ロシアは、石油価格高騰によるバブル寸前。その間にイノベーションを促進し、国の経済を築こうと必死なのがよくわかりました。

これは、日本にとっては最大のビジネスチャンスかも知れません。ロシアのこれからの経済発展を「待ち伏せ」で、今のうちにしたたかにすべての準備を終えておくという戦略的発想がこれからの日本企業には必要かと思います。ロシアのインフラ整備に日本が官民タッグを組んで取り組めば必ず日本の成長のためになると確信します。

これだけ世界経済が活発なのですから、日本国内に立て籠(こ)もっていても日本だけ取り残され、滅亡してしまうのではないかとすら思えます。あきらめたらおしまい。日本人は国内に立て籠(こ)もってばかりいないで、自分の未来は自分で切り開かねば、どんどん外に出ねばと感じました。

Q：最後に一言どうぞ。

A：今月は2冊の本を紹介させていただきます。1冊目は、企業活力研究所理事長の土居征夫先生著「人づくり、国づくりー日本人としての覚醒」財界研究所 2010年12月12日刊です。近現代史の栄光と挫折を振り返り、日本の世界的使命と新たな進路を考える必読の書と思います。

2冊目は、岡崎久彦先生著「明治の外交力ー陸奥宗光の『蹇蹇録(けんけんろく)』に学ぶー」海澱社、2011年2月25日刊です。坂本龍馬とともに明治維新を推し進めた後、明治の日本外交を築き上げた外務大臣陸奥宗光の名著「蹇蹇録」はあまりにも難しく読み解けない人の多い中、岡崎先生による有難い解説書と思います。

是非、御一読を。

ー 2011年2月23日記すー